

松山自動車道

東温スマートインターチェンジ 開通

愛媛県東温市と西日本高速道路(NEXCO西日本)四国支社が共同で整備していた「松山自動車道東温スマートインターチェンジ(IC)」が3月23日に開通を迎えた。松山道川内ICと松山IC間にETC専用として設置され、高速道路が利用しやすくなる。周辺には医療機関や工業団地が立地し、救急医療体制や地域経済の活性化などさまざまな効果が期待されている。23日午後3時に一般開放され通行が可能になった。



愛媛県知事 中村 時広

地域経済の活性化に期待

このたび、県民の皆様が待ち望んだ東温スマートICが開通の運びとなりましたことを大変うれしく思いますとともに、国土交通省、東温市、西日本高速道路株式会社をはじめ、これまで御尽力いただきました関係者の皆様方に深く感謝を申し上げます。

東温スマートICの周辺には、第三次救急医療機関である愛媛大学医学部附属病院をはじめ、陸上自衛隊松山駐屯地や県警機動隊基地などの重要施設が集積しております。今回の開通により、救急医療体制や地域防災力の強化が図られ、県民の安心・安全の確保につながるほか、高速道路へのアクセス向上による輸送コストの削減、近隣の工業団地等への企業立地の促進など、地域経済の活性化にも大きく貢献するものと期待しています。

県におきましては、引き続き、本県の更なる発展に向け、強靱で利便性の高い高速道路ネットワークの形成に力を注ぎ、「愛顔(えがお)あふれる愛媛県」の実現に邁進してまいります。



愛媛県東温市長 加藤 章

「命の道」の新たな玄関口に

「東温スマートIC」の開通に当たり、事業促進にご協力を賜りました全ての関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

東温スマートICは、ETC車載器を搭載した全車種対応のICとして、2018年度の事業化以降、東温市とNEXCO西日本四国支社が連携して整備を進め、2024年3月23日に開通の運びとなりました。

東温スマートICの開通により、高速道路へのアクセス性向上による企業誘致の促進や、松山IC利用交通の分散による渋滞緩和が期待されるほか、陸上自衛隊松山駐屯地や愛媛県警察機動隊基地、また、地域の核となる救急医療施設が近接していることから、災害発生時における「命の道」の新たな玄関口として防災や救急医療の体制強化に寄与するなど、県内全域にもたらす大きなメリットについても期待されます。

今後も地方の高速道路ネットワークの推進を図るとともに、さらなる地域経済の活性化に向け積極的に取組んでまいりますので、引き続き皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

事故防止へ安全対策を徹底

当工事では、約11万立方メートルの盛土を運搬する必要がありますが、事故防止対策をしながら土幅員8.5メートルの細長い盛土を構築することが主な作業内容です。細長い作業ヤードであったため、重機と人の接触事故防止を基本軸に工事を進めました。ボックスカルバートの施工にあたり、地下水位を低下させる必要がありました。しかし、近隣には多くの方が水源地として利用している泉や井戸があり、その泉には愛媛県の絶滅危惧種に指定されている黒川トンボも生息しています。そのため、水源地周辺に地下水位に影響を与えることなく、ボックスカルバートの周辺に地下水位を高く保つための対策として、付近で作業するバックホウに架空線防護対策として、付近では若築建設で改良した架空線等近接警報システムを設置して作業しました。架空線を切る可能性の高い走行



若築建設 二神組 所長 黒山 祥平

本体工事を振り返って

理において、ICT技術を活用した高精度な転圧管理を実施しました。マシンコントロールアルドラーによる精密な出しとGNSS(全球測位衛星システム)を使用したローラーの転圧回数履歴管理、ローラーに取り付けられた加速度計を用いた締め固め管理を行いました。また、全車のドライブレコーダーを取り付けました。周辺自治会、小中学校から要望や情報を毎月いただき、運行経路上の通学路にはある信号のない交差点には横断補助のための交通誘導員を配置しました。行きと帰りの道を同じくしないことと半量を1日最大150台で通行できました。重機と人の接触による事故を絶対に防止するため、施工機械のすべてにバックモニターと後方検知センサーを取り付け対策を行いました。現場に点在する架空線防護対策として、付近で作業するバックホウには若築建設で改良した架空線等近接警報システムを設置して作業しました。架空線を切る可能性の高い走行

環道型退出路を四国初採用

「環道型退出路」をNEXCO西日本四国支社管内で初めて導入しました。NEXCO西日本全体でも2カ所目となります。退出路を輪形の通路として接続し、接続部分に新たな開閉バーを設置しました。誤進入やETCカードにトラブルがあった場合は、開閉バーの前に設置されたインタホンから係員にその旨を伝え、案内に従い輪形の通路を通り、反対車線から来た道に戻る事ができます。退出路部分の形状がコンパクトになり、建設コストが抑えられる利点もあります。



NEXCO西日本四国支社管内のスマートICは四国で6カ所目、愛媛県では中山スマートICに続き2カ所目となります。2018年7月12日に(仮称)東温スマートインターチェンジ地区協議会を設立後、同8月10日に国土交通大臣から東温市長への連結許可を経て、22年2月28日に工事着手しました。

スマートIC自体は盛土構造の本線直結型です。重信川が近くを流れ、全体的に地下水位が高く、必要に応じて構造物を作り上げた後、約11万立方メートルの土により盛土を造成してあります。松山道の川内ICと松山IC間の延長は12キロ、今回の開通により川内ICと東温スマートIC間が3.4キロ、東温スマートICと松山IC間が8.6キロとなります。東温市の田窪工業団地や第2田窪工業団地に隣接し、流面から企業活動を支援するほか、医療活動や災害時の

の救済活動の迅速化に貢献します。松山ICを利用する交通の分散により、国道33号などの渋滞緩和も期待されています。地元、関係機関の皆様にご支援、ご協力をいただたいこと感謝申し上げます。各工事業務の受注者様には安全第一で計画通り着実に進めていただき、その都度解決に向け真摯(しんしん)に対応いたします。弊社が管理運営を担います。お客様に安全・安心で快適にご利用いただけるよう、地域経済の発展につながることを願っています。

Table with project data: 設置箇所 (愛媛県東温市田窪(松山自動車道川内IC~松山IC間)), 利用時間 (24時間), 出入方向 (全方向利用可能), 対象車種 (ETC車載器搭載全車種), アクセス道路 (市道高速側道1号線, 市道高速側道2号線), 全体事業費 (約42億8000万円)



テープカットとくす玉開破で開通を祝った

3月23日に開通式 企業誘致や観光振興に貢献 松山自動車道東温スマートICの開通を祝った。中央公民館で行われた式典で、加藤東温市長は「高速道路へのアクセスが向上し、企業誘致や観光振興につながることを期待しています。また、関係機関の皆様にご協力を賜りましたこと感謝申し上げます。」と挨拶しました。

盛土工程が非常にタイトであったが、盛土材として良質な岩石を使用できたこと、雨などの作業休止を少なくし、開通に間に合うことができました。

松山自動車道東温スマートインターチェンジ工事. 若築建設株式会社 (WAKACHIKU), 株式会社二神組, EJEC エイト日本技術開発. 支店長 岩田 功輔, 代表取締役 有光 秀明, 執行役員支社長 鈴木 清久.

松山自動車道東温スマートインターチェンジ舗装工事. 前田道路株式会社 (MAEDA), 東洋道路株式会社 (TOYO), 攝津電機工業株式会社 (SETTSU DENKI INDUSTRIAL CO., LTD.), 株式会社アトム (ATOM). 支店長 星川 学, 代表取締役 山本 雄一, 代表取締役 賀内 一彦, 代表取締役 東 久雄.